

Title	京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 80
Author(s)	
Citation	京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 (1959), 80: 1-6
Issue Date	1959-05-06
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/186974">http://hdl.handle.net/2433/186974</a>
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興會

## 水族館月報

No. 80

1959. 4月 (5月6日)

### 録 事

振興会は本月より芽出度く第7年目を迎えることとなった。

実験所では3月の下旬より4月の月上旬にかけて京都大学・甲南女子高校・大阪市立大学・京都市科学教育研究会の春の実習が引続いて実施され、多忙をさわめた。

4月6日イセエビ増殖に関する協同研究計画の第1回研究会が泉学荘で行われ、京大側宮地所長・内海助教授・原田研究員、近大副松井所長・原田輝雄助教授、和歌山県立水産試験場長・宮本技官の7名が会同した。

本年度は火災保険金額210万円を日動火災海上保険K.K. (証券番号125458号) に契約した。保険料は7,350円である。

1952年本会創設以来7年の永きにわたり、本会のために尽力された本会監事本田要太郎氏 (京都大学会計課長) は3月末を以て大阪学芸大学事務局長に栄転された。仍つて本会では監事を御退任されるを機会に、先例によって御功績に報いるため金25,000円の慰労金を同氏に贈ることとした。

4月30日最後の地方選挙が執行され、南要票はめでたく白浜町長に3選された。また明光バス会社小竹社長や援本番所山崎植物園長も町会議員に初当選された。

20日と24日とにわけて恒例の春の行楽賑興旅行はみさき公園自然動物園及び水族館の見学にあてられた。

本年度より事業収入の観覧券売上金の中の明光バス観光券によるものは現金入手の都度記帳することにした。したがって、毎月の月報記載の前年度との比較は入場者のみに限った。



今年度の振興会定期総会は、京都大学の会計検査の都合により6月5日頃開催の予定であるが、確定次第御案内いたします。

## 業 務 概 況

### ◎ 4月の入場者数

区 分	大 人	小 人	合 計
	本 月 分 計	本 月 分 計	本 月 分 計
水族館発売	個人	11358	1315
	団体	14936	—
交通公社発売	6899	—	6899
明光バス発売	25965	889	26854
合 計	59158	2204	61362
無 料			0

団 体 : 一般 241組, 学生 35組, 計 276組

### ◎ 4月の事業収入

#### 観覧券売上金

窓 口 発 売	479,500
交通公社クーポン	102,015
明光バス観光券	— ※

予金・積立金利息 —

雑 収 入 120

魚 菜 拂 下 200

絵はがき拂 下 11,210

計 593,045

※ 明光バス観光券未収分 大人券 38717枚, 小人券 2849枚

### ◎ 4月の支出

#### 水族館経費

費 目	金 額	備 考
人 件 費	94,405	宮地・時岡委員旅費, 臨時雇賃金
会 議 費	900	
備 品 費	—	
消 耗 費	11,730	
事 業 費	50,459	
維 持 費	—	
其 他 諸 差 費	34,825	中田前監事へ退任慰労金贈呈
積 立 金	225,120	
合 計	417,439	

実験所経費

費 目	金 額	備 考
研 究 費	20,000	山踏委員
奨 励 金	—	
備 品 費	—	
消 耗 費	—	
刊 行 費	—	
役 務 費	—	
合 計	20,000	

博物館経費

費 目	金 額	備 考
人 件 費	20,300	
備 品 費	—	
消 耗 費	—	
役 務 費	—	
合 計	20,300	

臨時費

支出なし

支出合計

水族館経費	417,439
実験所経費	20,000
博物館経費	20,300
臨時費	—
計	457,739

◎ 4月末現在高

今月の収入合計	593,045
今月の支出合計	457,739
現 在 高	135,306

◎ 前年度との比較

	1958	1959	増 減
入 場 者 数	57,070	61,362	+ 4,292

## 水族館記事

- ◎ 21日、2月2日以来入槽中のタカアシカニが水温上昇に伴ない遂に死亡した。  
 ◎ 今月も熱帯性の大型のヒトデが多数入槽し、その異様な兇争さは観客を驚かすに足るものである。

14日 イバラヒトデ 1個体

16日 イバラヒトデ 1個体

20日 オオアカヒトデ 1個体

27日 オオアカヒトデ 2個体

- ◎ 魚類などはほとんど前月と変りないが、中旬にイシダイを10個体ほど中央の筒廠大水槽(N0. 24)に入れたところ、これがナヌカザメ、ドチザメ等をつっつき、ナヌカザメ3個体、ドチザメ1個体を傷つけてしまった。傷ついた魚は予備水槽に移した。

- ◎ 4月30日現在、観覧水槽に収容飼育中の動物は総計138種、950個体以上で、その内訳は下記の通り。

カイメン類	2種	ヤギ類	1種	ウミエラ類	1種
イソギンチャク類	7種	ハナギンチャク類	1種	イシサンゴ類	9種
ツノサンゴ類	1種	カブトガニ類	1種	エビ類	7種
ヤドカリ類	4種	カニ類	12種	アメフラシ類	5種
二枚貝類	3種	巻貝類	8種	ウミシタ類	1種
ヒトデ類	4種	ウニ類	9種	ナマコ類	5種
軟骨魚類	5種	硬骨魚類	50種	カメ類	3種

## 博物館記事

- ◎ 18日またまた岩代で刺網にかかった珍魚ボロカサゴ1個体が南部町教育委員長外山秀松氏より標本として寄贈された。体長15.2cm。

# 資 料

- ◎ 4月の気象 (9時観測)  
南水槽室 (水温比重はN.O. 25 水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(6)	3	3	0
室 温(°C)	$\frac{13.0 \sim 19.5}{16.6}$	$\frac{14.8 \sim 17.9}{16.3}$	$\frac{15.9 \sim 21.0}{19.3}$
水 温(°C)	$\frac{16.47 \sim 17.53}{16.97}$	$\frac{16.63 \sim 18.14}{17.17}$	$\frac{18.53 \sim 20.52}{19.65}$
比 重(0.15)	$\frac{24.53 \sim 25.62}{25.31}$	$\frac{24.69 \sim 25.67}{25.11}$	$\frac{24.53 \sim 25.50}{25.30}$

取入口

水 温(°C)	$\frac{16.45 \sim 18.35}{17.37}$	$\frac{16.61 \sim 18.85}{17.64}$	$\frac{18.90 \sim 21.68}{20.18}$
比 重(0.15)	$\frac{25.35 \sim 25.70}{25.60}$	$\frac{25.17 \sim 25.67}{25.46}$	$\frac{25.21 \sim 25.80}{25.63}$

- ◎ サメエイ類の当水族館における最長飼育期間の記録

米国フロリダ州にある Cape Haze Marine Laboratoryの所長 Dr. Eugenie Clarke (銚まうっ女)の著者)よりこのほど調査依頼があつたのを機会に、過去において当館に記録されてあるサメエイ類の最長飼育期間を参考のため摘記するとした。このほかにも長期間飼育したものもあるが、記録が不完全であるか或は記録しなかつたものもある。(原田)

ネコザメ(時々入槽するが産仔したことはない) 14/XI'57~13/III'58(約8月間)  
ナメカジメ(時々入槽し、しばしば産仔するが、長くは持たない)

14/IV'53~13/V'53(約1月間)

オオセ(しばしば入槽し、長期間飼育できる。産仔もしばしばで、仔魚を飼育した最長期間は約1年5月であつた) 28/IV'57~22/IX'58

ホシザメ(時々入槽するが、すぐ死ぬ) 2/IV'52~27/IV'52(約1月間)

シロザメ(しばしば入槽する) 25/IV'52~8/VII'52(約2月半)

ドクザメ(しばしば入槽する。産仔もしばしばであるが仔魚はあまりもたない)  
24/III'58~5/II'59(約1年間)

カスザメ（時々入槽する） 25/Ⅲ'53～2/Ⅳ'53（約2月余）

シビレイ（しばしば入槽するが、10月以上飼育したことはない）記録未詳

サカタザメ（しばしば入槽し、産仔することもある）24/Ⅲ'53～8/Ⅳ'53（約2月間）

ガンギエイ（しばしば入槽するが、産仔したことはない？） 2/Ⅳ'53～3/Ⅳ'53  
（約2月間）

ウシエイ（時々入槽する） 24/Ⅱ'57～30/Ⅳ'57（約1月余）

アカエイ（しばしば大量に入槽し、産仔することがあり、仔魚の長期間飼育も可能）  
30/Ⅳ'58～5/Ⅴ'59（4月余）

ツバクロエイ（まれに入槽するが、長くはもたない） 27/Ⅴ'53～24/Ⅵ'53  
（1月たらず）

トビエイ（まれに入槽するが、すぐ死ぬ） 18/Ⅳ'53～27/Ⅳ'53（約10日間）

マタラトビエイ（まれに入槽するが、すぐ死ぬ） 25/Ⅴ'57～30/Ⅴ'57  
（5日間）

## 来 訪 録

4月14日 日本視覚教材株式会社榎島清一氏（教材用の水族館の映画撮影について）

昭和34年5月6日（NO. 80）

編集兼  
発行者

内 海 富 士 夫

発行所

瀬戸内海実験水族館  
和可山県白浜町  
瀬戸内海実験管内  
（Tel. 白浜温泉 515）